

女子
シングルス
優勝

男子
シングルス
優勝

2020

五輪落選の
悔しさを
バネに、戴冠

一撃必中。
攻撃は最大の防御なり



ベンチに入った
石田大輔コーチと
歓喜の握手



ベンチに入った
父・直充さん

早田ひな (日本生命)



4年に1度行われるオリンピック。どのアスリートもオリンピックを夢見て活動していると言っても過言ではない。

卓球日本五輪代表は1月6日に発表され、その中に2020年全日本選手権女子シングルス優勝早田ひな(日本生命)の名前はなかった。

目標としていたオリンピック。選ばれず気落ちしてしまう状況の中、早田はこの状況をパワーに変えて、「五輪代表発表から全日本選手権まで約2週間。いままで逃げてしまったことに向かい合うことにしました。例えば、これまで、睡眠を取る前に、サーブのことが気になって

も、睡眠時間を確保したいので、寝てしまっていたのですが、五輪落選後は、気になったことはその日に納得するまでしよう、と考えるようになりましう。その成果がこの全日本選手権に結果として現れたのだと思います」

女子選手としては恵まれた166センチの体格を生かし、強打を繰り出す早田。本人は、中国の許昕選手になりたいと話す。

「許昕選手と名前を聞くだけで、試合に勝てないイメージがあるからです」と笑顔で話す。

悔しさをバネに、「コートヒーロー」が誕生した。

宇田幸矢 (JOCエリートアカデミー/大原学園)



男子シングルス決勝は、宇田幸矢(JOCエリートアカデミー/大原学園)と張本智和(木下グループ)が対戦。両者どちらが優勝しても高校生チャンピオンが誕生する状況となり、卓球界の低年齢化が進んでいることがわかる。

試合は、宇田がゲームカウント3対1とリードし、5ゲーム目も10-8とリード。初のタイトルが脳裏に浮かぶ。しかし世界で結果を残す張本はそのゲームを挽回する。こうなってしまうと流れは張本に傾き、フルゲームの4-1となる。「やっぱり張本か」と誰もが思ったが、宇田は「守っているのは勝てないことがわかっていたので、攻める

ることを意識しました」と話した通り、打点の早い強打を最後まで打ち込み続けて徐々に挽回、宇田サーブの9-9とする。張本のフォア前にサーブ。張本のミス誘い、宇田が気迫の雄たけびをあげ、10-9とする。緊張の瞬間、宇田が再び張本のフォア前にサーブ。張本のレシーブはバックサイドにオーバー。その瞬間に宇田がコートに倒れこみ、18歳のチャンピオンが誕生した。

宇田は、勝負所で徹底してフォア前にサーブを集め、得点をあげた。きつと幸矢選手を小さい頃から支える父・直充氏のアドバイスがあったと考え

